

タイトル

搾乳器の使用感について 第 4 報

— 吸引刺激が排乳開始時間と搾乳量に与える影響 —

ピジョン株式会社 中央研究所

平田 尚子、 斉藤 哲

【目的】

搾乳器で最適に搾乳するためには、乳房と搾乳口とのフィット感、吸引サイクル、吸引圧等を確認することが重要である。今回、電動搾乳器を用いて、搾乳開始時における吸引サイクルや吸引圧の強さが、排乳開始時間と搾乳量に及ぼす影響について検討した。

【対象と方法】

対象：1～3 ヶ月（平均 7.8 週）の乳児を持つ母親 6 名、全ての母親が母乳育児を実践していた。方法：吸引サイクルと吸引圧を独立に調節できる搾乳実験機を使用した。搾乳開始時の条件は、吸引圧を -60mmHg の下で、2 つの吸引サイクル A：1.7sec/cycle（遅い）、B：0.5sec/cycle（速い）とした。2 条件は、同日に実施せず、別日にほぼ同時刻で行った。条件 AB の下で吸引を開始し、母乳が出始めてからは、1.0sec/cycle、-90mmHg の吸引圧で搾乳した。左右各乳房、各 10 分間搾乳し、片方ずつ搾乳開始時間と搾乳量を調査した。倫理的配慮として、母親には調査内容を説明後、同意を得た上で参加してもらい、搾乳器の使用時間、搾乳量は母体、乳児ともに負担のない範囲で行った。

【結果と考察】

開始時の吸引刺激による効果を検証するために、吸引開始前に排乳がすでに開始している場合の測定値を除いた。開始時片側乳房に吸引刺激を与えた際の排乳開始時間は条件 A で平均 (SD) 20.0 秒 (26.0)、条件 B が 49.0 秒 (40.3) であった。反対側乳房に吸引刺激を与え、同様に排乳開始時間を調べたところ、A で 9.5 (7.6)、B で 90.8 (91.1) であった。搾乳量は、開始時片側乳房において、条件 A で 38.3m l (30.1)、条件 B で 20.3m l (21.2)、反対側乳房では、A で 27.7m l (23.6)、B で 21.3m l (23.2) であった。以上のことから、開始時の吸引サイクルの違いにより、排乳開始時間、搾乳量に異なる影響を確認した。今後、例数を増やし、搾乳開始時の吸引条件が排乳開始時間と搾乳量に及ぼす影響について、さらに詳しく検討していく予定である。